

令和7年度第1回宮城野区区民協働まちづくり事業 評価委員会 令和6年度企画事業実績報告及び事後評価 議事要旨

日 時：令和7年5月23日(金) 午後18時45分～21時00分
場 所：宮城野区中央市民センター3階 第3会議室
出席者：大西委員長、安部副委員長、眞野委員、千田委員、
羽賀委員、まちづくり推進課

1 開会

※入れ替え制での開催のため、委員長挨拶・評価委員の紹介・概要説明は省略。

2 事業報告及び質疑応答

(1) すずむしの里づくり事業（実施主体：すずむしの里づくり実行委員会）

＜質疑・意見＞

委 員 町内会として講師派遣や配布会をお願いしたいと考えているが、7月後半から10月に余力はあるか。

説明者 時期が一番大きい要素であり、お盆の頃までは配布できる。9月になると段々すずむしの数が減り、10月には産卵後の親が死滅し、卵は土の中にある状態となり配布はできない。7月最終週に区役所や市民センターでの配布会のスケジュールが集中しているため、8月上旬で余力があれば対応させてほしい。

委 員 テレビ番組でも事業が紹介されたが、これらの広報は実行委員会から投げかけたのか。

説明者 放送局の方から取材して良いか打診があった。放送のおかげで、令和6年度は前年度よりも参加者が100名以上増加した。毎年市民センターだより等で細々と広報はしているが、令和7年度はもっとインパクトのある内容でチラシ等を作りたい。令和6年度は市民センターでふ化する数がかなり少なく、配布会を開催できるかどうかの瀬戸際だったが、幸い他の施設からすずむしを提供してもらい、無事に開催できた。ネットワークをさらに広げ、活動を周知していくことは重要視している。

委 員 せっかく仙台の虫を育てているので、夏の風物詩として、すずむしの配布会や出前授業を取り扱っていけるように、マスコミへの投げかけ等の地道な活動を続けてブランディングしていくと良いと思う。小学校への出前講座はどのような形で宣伝をしているのか。

説明者 宮城野区内の小学校は毎年恒例で開催しているところが多いが、先生の異動によって新たに開催する学校もある。宮城野区外の小学校に関しても、宮城野区内ですずむしの出前授業を受けた先生が異動先でも講座をしてほしいという依頼が来ている。実行委員会から大々的に宣伝するには、生徒数に対して講師の数を確保できないという問題点がある。また、去年は講座を開催できたが今年ができないという場合に、同じ小学校の中で講座を受けた学年と受けていない学年で差が出るのは問題ではないかという疑問もある。

委 員 保護者的には今年はずずむしの講座はないのかと思うかもしれないが、代わりに別のイベントがあるだろう。教育上の問題点は不明だが、最近は学年の色があるのも主流になっているし、コロナが明けてからより多様な学びを自由に選べるようになっている。学校向けにも広報を投げかけることで、数年に1回程度は今まで開催していなかったところでも実施できると思うので、ぜひ検討してほしい。

説明者 承知した。

(2) 地域はっぴい子育て支援事業（実施主体：みやぎの区民協議会子育て支援部会）

＜質疑・意見＞

委員 ママらいふ手帳を 2,200 部印刷したうち、どの程度配布したのか。

説明者 令和 6 年度の宮城野区の出生数は約 1,300 人になるが、宮城野区家庭健康課で新生児訪問の際に各家庭に配布するほか、窓口や転入した方の訪問でも約 300 部配布したため、家庭健康課からは合わせて 1500～1600 部程度になる。また、各児童館では、はっぴいママカフェの開催時に約 200 部を配布した。以上合わせると、令和 6 年度は約 2,000 部配布したことになる。

委員 令和 5 年度事業実績報告会ではひとり親家庭への支援に目を向けていたようだったが、令和 6 年度の取り組みがあれば教えてほしい。

説明者 部会員が所属する各児童館・子育て支援施設や、家庭健康課の地域担当者を通して、ひとり親家庭の支援について情報交換をしている。今後はさらに学びを深めていきたい。

委員 部員が所属している児童館以外でもはっぴいママカフェを開催できたことは高く評価できる。部会員だけによらずに区全体での子育て拠点としての事業展開が期待される一方で、地域の団体や民生委員児童委員等、幅広いネットワークを作っていく必要があるという点で、現在準備を進めていることがあれば教えてほしい。

説明者 部会員が所属している児童館や子育て支援施設でそれぞれ構築しているネットワーク経由で協力を仰ぐことで、実際に広がりを作っていけている。はっぴいママカフェを開催するときには、会場の児童館職員だけではなく、地域の民生委員児童委員等にも手伝ってもらったり、事業の紹介をしたりして、繋がりを増やしているところである。また、令和 7 年度からは新たに地域の読み聞かせサークルの代表にも子育て支援部会に入っていたこともあり、今後も部会の構成も変化させながら事業を進めていきたいと考えている。

(3) おらほの公園草刈隊支援事業（担当課：宮城野区公園課）

＜質疑・意見＞

委員 町内会として公園課に植栽の剪定・除草をお願いすることがあるが、それはおらほの公園草刈隊が実行しているのか。

説明者 公園課での除草業務はあるが、1つの公園に対して年 1, 2 回など数に限りがあるため、夏場の除草が追い付かない部分については草刈隊事業でカバーしている状況である。

委員 町内会でも単独で草刈りをしているが、それをおらほの公園草刈隊に登録をした方がよいのか。

説明者 草刈隊に加入すれば、草刈り機の貸出や燃料の支給を受けることができるので、ぜひ検討してほしい。

(4-1) ご近所ふれあいステップアップ事業(担当課:宮城野区区民生活課)

<質疑・意見>

委員 特殊詐欺防止啓発品(ポケットティッシュ・ふきん)はそれぞれどのくらいの数を配布したのか。

説明者 ポケットティッシュは1度に配布するのは200~300個、ふきんについてはチラシとティッシュも同封して1回あたり200~250個程度の配布になっている。それぞれ単体で配布したりセットにしたり、また、他の防犯関係の事業で使用する啓発品を組み合わせることもある。

委員 特殊詐欺被害は宮城野区も増えているので、予算に余裕があればもっと配ってほしいと思う。令和6年度の啓発活動は東仙台地区をモデル地区とし、東仙台中学校の生徒を中心にされていた。ただ、東仙台中学校には新田小学校区の生徒と東仙台小学校区の生徒が通っているのに、東仙台地区でのみ啓発活動をしていると、新田地区の保護者に事業を知られないということがもったいない。中学校周辺だけでなく、中学校区として地域や配布場所の選定を行っていくと活動が広がると思うので、今後工夫する余地があればぜひ検討してほしい。

説明者 現在は中学校の生徒達に協力してもらい、東仙台駅前で朝、通勤・通学の人たちに対して啓発活動をしている。今後どうしていくか、できるだけ生徒たちの負担にならないように活動していきたい。

(4-2) 地域防災力向事業(担当課:宮城野区区民生活課)

<質疑・意見>

委員 このテーマに関しては、大変地道な作業になるが、ずっと継続していかなければならない事業だと思う。今後も期待している。

委員 講師謝礼は規定に則って支払っているのか。

説明者 仙台市の基準に従って支払っている。

(5) みやぎの地域力向上支援事業(担当課:宮城野区まちづくり推進課)

<質疑・意見>

特になし。

(6) 宮城野盆踊り普及事業(担当課:宮城野区まちづくり推進課)

<質疑・意見>

委員 宮城野区で「宮城野盆踊り」と称して祭りを開催している町内会は実際どれくらいあるのか。

説明者 正確な数は把握していないが、自分が知っている限りでは単体で宮城野盆踊りを開催したところは20位だったと思う。その他、複数の町内会が合同で開催しているところや、学区民体育振興会と一緒に開催しているところを加えればもっとあるはずである。

委員 私も地域の祭りや町内会で宮城野盆踊りを取り入れるようにと呼びかけてはいるが、踊り手が高齢化して、こどもたちだけではなかなか受け入れてもらえない。一人が宮城野盆踊りに使命感を持っていても、周りがついていけない社会になっている。その中で普及させていくのは大変だと思うが、実際に盆踊りとして取り入れているケースをPRして広めていければ良いと思う。

委員 練習会の回数や講師の派遣人数だけでなく、練習会に参加した人数のデータを取れば、広がり方がわかりやすくなる。新田では延べ 200 人ほどが宮城野盆踊りの練習会に参加したが、そこでは宮城野盆踊りと七夕踊りの他に、人気のダンス曲や洋楽を用いた盆踊りを取り入れたことで多くのこどもたちが参加し、祭り当日も今までにないほど盛り上がった。まだまだ盆踊りは人を魅了するものを持っていると思うし、祭り以来挨拶を交わす回数も増え交流のきっかけにもなっている。ぜひ今後も工夫を重ねながら継続事業として頑張ってもらいたい。

委員 町内会長あてに宮城野盆踊り開催の意向調査をしていると思うが、町内会長から祭りの担当者には確認されないことが多い。調査の時に祭り担当者がいれば記入してもらうなど、意向調査の仕方を工夫すると思う。

説明者 町内会ごとに伝達ルートや方法に違いがあるだろうが、検討する。

委員 銀杏町は宮城野盆唄と相馬盆唄でそれぞれ時間を設けている。個人的には宮城野盆唄だけやれば良いのではと思っているが、宮城野盆踊りだけ開催した町内会はあるのか。

説明者 私の記憶では宮城野町会だけである。参加者全員に盆踊りを楽しんでもらうためには宮城野盆唄だけではなく、相馬や七夕などツールが多い方がいいのではないかと。「盆踊りは宮城野盆唄だけ」とまでは望まないが、色々な踊りがある中で宮城野盆唄が定番の 1 つに数えられるように広まれば良いと思う。

(7) 震災の記憶伝承と命を守る防災学習（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

<質疑・意見>

委員 事業を実施する学校施設が宮城野、榴岡、原町地区に偏ってしまっている。もう少し宮城野区内の遠方にも活動を広げると良いと思う。

委員 事業を実施する学校はどのように募集しているのか。

説明者 事業開始は令和 3 年度だが、わしん倶楽部も女性防火クラブも、区で事業をお願いする前から独自で活動しており、それぞれ関係性がある団体・学校等に協力してもらっている。その他、事業を知った学校側からの依頼で講和をしたものもある。

(8) みやぎの・まつり（実施主体：みやぎの・まつり実行委員会）

<質疑・意見>

委員 みやぎの・まつりは目玉に乏しく、マンネリ化しているように感じる。地域住民からも、せっかく会場に行っても心が躍るものがなく、物販や食べ物もそれほど安くないという厳しい意見が耳に入ってくる。根本的な見直しが必要なのではないか。例えば他区ではキッチンカーを集めたイベントを開催して好評を得ているが、まつりではそのような出店はできないのか。

説明者 みやぎの・まつりでの出店は非営利団体に限定しているため、流行りの店やキッチンカーから応募されても、該当しない場合はお断りしている。また、まつりでは自衛隊の車両展示や搭乗体験が目玉である。区内で過ごしていると当たり前を感じるかもしれないが、他の区からはポッポ列車や自衛隊の車両等、宮城野区の独自の魅力を目当てに訪れてもらっている。みやぎの・まつりをもっと楽しんでもらえるよう、今後はより一層頑張りたい。

(9) みやぎの・まちづくり若手人材育成支援事業（担当課：宮城野区まちづくり推進課）

<質疑・意見>

委 員 やはり参加者が少ないと思う。募集 PR が足りないのか、開催期間や時間が影響しているのか。受講生からアンケートを取ってまとめてみると良いと思う。

説明者 令和6年度当初は受講生7名だったが、そのうち途中で離脱した方もおり、最終的に2年間通して受講したのは4名だった。令和7年度も広く募集を募っているものの、スタートダッシュの時点でなかなか人が集まらない状況に変わりはない。今後の PR や開催方法については、コーディネーターの岩間氏も含めて検討中である。

委 員 参加者が増えれば受講生は様々な価値観の中で切磋琢磨することができ、気づきも増えるだろう。もっと人数を増やせるように工夫してもらいたい。

委 員 第9回全体会（発表会）の内容を教えてください。

説明者 2年間通して受講した4名により、それぞれみやぎの・まつりでブースを出展した際の振り返りや今後の展望について発表した。「今後もまちづくりを続けていきたい」と具体的に発表した方もおり、宮城野区長からは次に繋がる活動ができて良かったと高く評価された。

委 員 事業を行った2年間の間に、追加募集は行ったのか。

説明者 1年目の募集の際に期間を延長した他には、追加募集は行っていない。

委 員 最後まで事業に参加した4名は、最終的にまちづくりはもう十分と感じたのか、それとももっと何かに取り組みたいと思ったのか。「まちづくり」をどのように自分に落とし込んだのかを教えてください。

説明者 4名のうち3名は「今後もまちづくりに関わっていきたい」と次の展望を見据えていた。1名については、「まちづくりよりも一緒にいる身近な人を楽しませたい」という気づきに繋がり、自身の目標を実現するための一助にいただいた。

委 員 受講生を地域の祭りに紹介するなど、次に繋げるバックアップをしてほしい。また、時間が経ってから再度まちづくりに関わりたくなったというときにも、人脈作り等でサポートをし、最後までフォローしていく必要がある。

4 閉会